

さまざまな職業の話聞く

大崎中央高で進路選択の参考に キャリアセミナー

さまざまな職業の社
会人から仕事について
の話を聞く「キャリア
セミナー」が8日、大
崎中央高（佐々木哲校
長）で開かれ、1、2
年生の84人が進路選
択に生かそうと各講師

の話を真剣に耳を傾け
た。

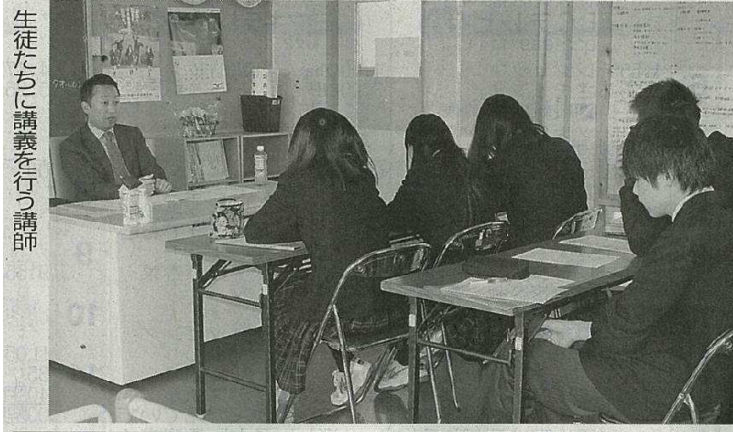
セミナーは、将来の
就職や進路への一助に
してほしいと、古川東
ロータリークラブ（中
鉢喜信会長）の職業奉
仕委員会（早坂竜太委
員長）が2009年度
から実施している。

講師は、同クラブ会
員が経営する飲食業や
建設業、医療・介護の
関係者、弁護士、柔道
整復師ら14人。生徒た
ちは聴講したい講師2

人を選択し、各教室で
話を聞いた。
このうち、同市古川
にある広告代理店「ア
ド・プランニング」の
加藤雄一代表（48）は、
「格好いい仕事とは？」
と題して講義。広田氏

理店の仕事内容や仕事
の流れを紹介し、生徒
たちに「君たちが今、
「アメリカに行って靴
を売れ」と言われたら
どう売るか」などと問
いかけながら進めた。
その中では「この仕
事を20年続けている
が、世の中にないもの
を作る楽しさがある。
達成感、充実感がある」と
強調。その上で「広
告代理店という格好
いいイメージがある

が、一生懸命やってい
る人は何の仕事でも格
好いい。仕事は見た目
の華やかさや表面だけ
ではなく、後ろ側も見
る。これは仕事を選ぶ
上で役に立つ」とアド
バイスした。
生徒たちは、真剣な
表情で聴講。保育コー
ス2年の志齊明日香さ
ん（16）は「保育士を目
指しているが、達成感
ある仕事をしたいと思
った」と話していた。



生徒たちに講義を行う講師

古工建友会

卒業生の一致団結誓う

創設45周年記念し全国大会

古川工業高建築科の卒業生でつくる「古工建友会」(早坂竜太会長、会員数約2200人)は11日、大崎市古川のグランド平成で、創設45周年を記念した全国大会を行った。全国各地から5年ぶりに集まった卒業生たちは、仲間との再会を喜び、さらなる結束強化を誓った。

互助互恵の精神胸に

同会は、建築科第3代科長、菊池謙さん(後に顧問、2014年3月死去)が、卒業生の連帯と互助互恵の精神の必要性を訴え、19

72(昭和47)年に創設した。科単独卒業生の会は全国的にも珍しく、同会古川北稲葉に専門の事務所を構えている。出席した。大会では、物故会員へ黙とうした後、早坂会長が「先輩、後輩の一致団結は地域活性化にもつながる。全国でも類のない組織として、誇りを持って

いこう」とあいさした。

会場には、菊池さんの妻、和子さんも訪れ、「45年の歳月を思うとき、会長はじめ会員の並々ならぬ努力を実感する。建友会の発展と充実を願っています」と声を話まらせた。また、関東支部長や首都圏大崎連絡協議会長代行などを歴任し

古工建友会 全国大会



古工建友会全国大会であいさつする早坂会長

た、おおさき大使の草刈文幸さん(72)「東京都市野市、15回卒」が「仲秋の名月」と題して講演し、新暦と旧暦、俳句の効果などを語った。このほか、退任役員など功労者への感謝状贈呈、母校の近況報告があった。



大崎、仙台、関東、石巻、栗原、北海道の各支部があり、現場見学やインターシッパの受け入れ、模擬面接など在校生の支援も積極的にしている。

全国大会は5年おきに行っており、今回で9回目。約1200人が

古工建友会が45周年

大同団結・互助互恵 古川で全国大会 11日

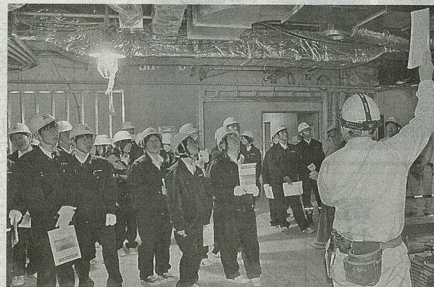
古川工業高校建築科卒業生の会「古工建友会」（早坂章太会長、会員数約2,000人）は11日午後4時から、創設45周年記念・第9回全国大会を天崎市古川のグランド平成（開）で開く。全国各地で建築の仕事等で活躍する多くの卒業生たちが5年ぶりに一堂に集う。

同会は、建築科第3（972）（昭和47年）に代科長、菊池謙さん（後）に顧問。2014年3月死去）が、卒業生の連帯と、互助互恵の精神の必要性を訴え、1「古工建友会」を設立した。科単独卒業生の会と



「古工建友会」に在校生が来館

同会は、建築科第3（972）（昭和47年）に代科長、菊池謙さん（後）に顧問。2014年3月死去）が、卒業生の連帯と、互助互恵の精神の必要性を訴え、1「古工建友会」を設立した。科単独卒業生の会と



建築科OBも携わった大崎市民病院の建設現場を見学



2012年に開催した第8回全国大会



菊池謙顧問を「偲ぶ会」で手を合わせる会員たち（2014年8月）

在りし日の菊池顧問

【古工建友会 本部役員】			
名誉会長	鈴木 文男	第2代会長	鈴木 文男
建友倶楽部館長	大河内五郎	第2代館長	大河内五郎
相談役	島貫 謙二		
//	櫻井 秀次	第2代北海道支部長	櫻井 秀次
//	菅原 政隆	第3代会長	菅原 政隆
//	原 清人	第4代会長	原 清人
//	佐々木幸正	古工校長	佐々木幸正
参会	与 秋野 元彦	古工校長	与 秋野 元彦
副	長 早坂 竜太	第6代会長	長 早坂 竜太
//	宮澤 忠一	運営委員長	宮澤 忠一
//	千葉 敏明	北海道支部長	千葉 敏明
//	白鳥 淳	東原支部長	白鳥 淳
//	小出順一郎	仙台支部長	小出順一郎
//	藤山 吉彦	大崎支部長	藤山 吉彦
//	石川 雅博	石巻支部長	石川 雅博
幹事	長 鎌田 孝志		長 鎌田 孝志
事務局	長 遊佐 忠行	古工建築科長	長 遊佐 忠行



在校生の就職支援で模擬面接



全国6支部が活発に活動



45周年に合わせ発行した名簿

物故会員へ黙とう
後、早坂会長が挨拶
ついで、退任役員など
卒業生感謝状を贈呈す
また、和貴企画（東
京都日野市）の草刈文
幸代表取締役（15回卒、
デオも放映予定。

おおさき実夫大使、首都
圏大崎連絡協議会副会
長が「中秋の夕月」
と題し記念講演する。
記念撮影後、懇親会も
行い、情報交換しなが
ら交流を図る。記念ビ
デオも放映予定。

古工建友会憲章

- 1997年11月14日 第5回全国大会採択 —
- われわれ古工建築科卒業生は、母校の栄光ある歴史のもと大同団結する。
 - われわれは互助互恵のこころをもって先輩の英知と経験に学び、また後輩の学習と成長を援ける。
 - われわれは常に専門分野の実力向上に努め、その力量をもって健康で豊かな生活基盤の創造発展に寄与する。

古工建友会 45年間のあゆみ

【揺籃期（創設、基礎固めの時期）】

1970(昭和45)年 建築科第3代科長の菊池謙氏が、卒業生の生涯教育と結束（大同団結・互助互恵）の必要性を提唱し、全国の卒業生に接触、組織結成の要を説く

1972(昭和47)年 機運が熟し「古工建友会」を設立、初代会長に桜田国男氏（工1）、事務局長に菊池科長就任。「古工建友会報」創刊

1973(昭和48)年 菊池事務局長が私費を投じ、名簿第1号を発行
以後、母校・卒業生同士の連携がにわかに深まる

1974(昭和49)年 大崎支部、仙台支部、関東支部設立

1975(昭和50)年 石巻支部設立

1976(昭和51)年 後援組織「古工建友会賛助会」設立

1978(昭和53)年 設立7周年記念全国大会（第1回、飯坂）

【会館建設運動期（活動拠点の建設運動）】

1980(昭和55)年 菊池事務局長が「古工建友会館」建設構想を発表
桜田会長を先頭に寄金活動開始。栗原支部設立

1981(昭和56)年 設立10周年記念全国大会（第2回、鳴子）、記念誌発行

1982(昭和57)年 古川市福浦に「建友会館」建設用地取得（581平方m）

1983(昭和58)年 パブル不況のため、やむなく「建友会館」寄付募集を凍結

1985(昭和60)年 地域に建築科教育を紹介する「大建築展」（ニチイ古川店）

1987(昭和62)年 菊池事務局長が母校創立60周年記念事業計画の担当となり「実習棟統合計画」実現に行動開始。建築研究部が実現模型を製作

1989(平成元年)年 設立16周年記念全国大会（第3回、松島）。第2代会長に鈴木文男氏（工高5）就任。菊池事務局長が定年退職、引き続き顧問として会を指導。事務局長に大河内五郎科長が就任

1990(平成2)年 母校が男女共学制に移行

1991(平成3)年 北海道支部設立

1992(平成4)年 母校実習棟新築構想が実現（設計から施工まで、すべてOBによるプロジェクト）

1993(平成5)年 設立20周年記念全国大会（第4回、鳴子）

【自立萌芽期（郊外に事務局を開設）】

1994(平成6)年 鈴木会長の英断で会館用地を売却。古川市駅南に「古工建友会倶楽部」開設、菊池顧問が館長に就任。母校60周年記念式典

1995(平成7)年 会館編集委員会が発足。総合実習棟落成

1996(平成8)年 大崎支部に青年部発足

1997(平成9)年 後輩を対象に「2級建築士受験勉強会」実施。専門領域からの貢献を目指し「教職員部会」誕生。設立25周年記念全国大会（第5回、鳴子）。「古工建友会憲章」採択。設立25周年記念名簿発行（第16号）。普通教室棟、管理棟落成

1999(平成11)年 古工建友会倶楽部を古川市北稲葉（現大崎市古川北稲葉）に移転。

【活動発展期（運営委員会による会運営開始）】

2000(平成12)年 運営委員会を編成、初めて会員の手に運営開始。また、事務のIT化を目指す

2001(平成13)年 仙台支部に青年部発足

2002(平成14)年 設立30周年記念全国大会（第6回、古川）。会報第50号達成。

2003(平成15)年 第3代会長に菅原政隆氏（工高15）就任。鈴木前会長を名誉会長に推薦。在校生との交流事業、産業現場実習（インターンシップ）など、建築科教育を積極的に応援。母校新体育館完成

2004(平成16)年 公式ホームページ及び「なんだりかんだり掲示板」開設
運営委員会の母校建築科教育への協力がさらに深まる。母校創立70周年・新体育館落成記念式典挙行

2005(平成17)年 第4代会長に原清人氏（工高20）就任

2006(平成18)年 北海道支部が設立15周年記念大会（札幌）

2007(平成19)年 名簿第19号発行、設立35周年記念全国大会（第7回、古川）

2011(平成23)年 第5代会長に佐々木幸正氏（工高27）就任

2012(平成24)年 設立40周年記念全国大会（第8回、古川）

2013(平成25)年 菊池顧問が古工建友会倶楽部館長勇退、第2代館長に大河内前事務局長就任

2014(平成26)年 事務局長に遊佐忠行科長（工高38）就任
関東支部に青年部設立
菊池顧問逝去（3月2日）

2015(平成27)年 菊池謙先生を偲ぶ会（8月30日）
母校創立80周年記念式典
第6代会長に早坂竜太氏（工高37）就任

2017(平成29)年 古工建友会報第80号発行
古工建友会名簿第21号発行
古工建友会創設45周年記念全国大会（第9回、古川）

45周年全国大会に寄せて

会長 早坂 竜太



昭和47年に設立された我が「古工建友会」は、本年45周年の佳節を迎え、記念すべき第9回全国大会を開催する運びとなりました。

創設者である故 菊池謙先生が唱えた「大同団結・互助互恵」の精神は、いまも私達を結束させる要となっております。

思い起せば、第8回の全国大会が開催されたのは、あの東日本大震災の翌年9月のことでした。震災直後の7月には母校野球部の悲願の「甲子園出場」を果たし、被災者たちの心を癒やし勇気を与えてくれました。被災

の精神として今後も生き続けています。全国大会に多くの会員が集い、楽しく語り、励まし合うことが古工建友会の心であり、結ぶに、本大会にご出席を賜るご来賓と会員の皆様、準備に奔走

の精神として今後も生き続けています。全国大会に多くの会員が集い、楽しく語り、励まし合うことが古工建友会の心であり、結ぶに、本大会にご出席を賜るご来賓と会員の皆様、準備に奔走

心に残る全国大会に

第9回全国大会 実行委員長 千葉 裕一



昭和47年5月に設立された「古工建友会」も今年で45年目を迎える。第9回となる全国大会が、いよいよ開催される運びとなりました。

平成26年3月2日に逝去された、創設者「菊池謙先生」の設立に際しての思いが当時の設立宣言の中にあつた。顔と同じ様に、価

最近「〇〇ファースト」という言葉を聞くことが多くなりました。顔と同じ様に、価値

互助・互恵の理念

古工建友会倶楽部館長 大河内五郎



「我々は母校建築科を核として先輩、後輩の連携を深め、互助互恵

の精神をもって大同団結を遂げ、その力量を一八二人の無限なる発展の原動力たらしめることを願う…」

45年間にわたる単独の事務所を構えて活動を続けられているのも、出席いたたく予定

も、その精神のもと設立に尽力くださいました。菊池謙先生は、先輩各位のお陰で感謝してやみません。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

我々実行委員一同、皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

その精神を引き継ぎ、継続・発展させることが、先生はじめ多くの先輩諸氏に対する恩返しと考えます。

結ぶに、本大会にご出席を賜るご来賓と会員の皆様、準備に奔走

の精神をもって大同団結を遂げ、その力量を一八二人の無限なる発展の原動力たらしめることを願う…」

45年間にわたる単独の事務所を構えて活動を続けられているのも、出席いたたく予定

も、その精神のもと設立に尽力くださいました。菊池謙先生は、先輩各位のお陰で感謝してやみません。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様の心に残る全国大会となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

故郷懐かしみ発展願う

すきです三本木 東京で総会と懇親会

首都圏で暮らす大崎市三本木地域出身者など約700名が「すきです三本木」(相沢昭男会長)の第8回総会と懇親会がこのほど、東京都台東区で開かれた。



あいさつする相沢会長

三本木地域や大崎市の関係者も駆け付け、会場には三本木が好きな人、三本木を応援したいという人が所属。毎年総会を開き、交流を深めている。総会には、伊藤康志市長代理の大田良一三本木総合支所長、門間忠大崎市議会議長、世界4階級制覇した古川出身の女子プロボクサー藤岡奈穂子選手など約70名が出席。

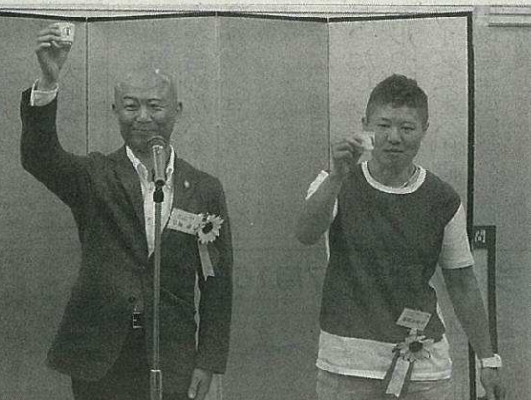
「すきです三本木」顧問を務める古川土地

講演師の神田京子さんによる独演会



「すきです三本木」第8回 総会

の早坂竜太代表取締役社長は、「故郷の様子を知ってもらいたい」と、社員とともに三本木地域や大崎市の話題を取り上げた新聞記事を集めて製作した冊子を出席者に配布した。相沢会長のあいさつ



乾杯の音頭をとる早坂顧問(左)と藤岡選手

の後、昨年度の活動や収支、本年度活動計画などが報告された。議事の後には講演師の神田京子さんによる独演会があった。総会終了後は、懇親会が開かれた。早坂顧問が、「三本木と大崎市の発展、藤岡選手の世界5階級制覇達成、三本木出身の日本女子体育大創設者・二階堂トクヨを題材にした朝ドラ実現などの願いを込めて音頭をとり、三本木の新鮮醸造店が造っている日本酒「伯耆屋」で乾杯。出席者たちは食事やカラオケを楽しみながら、近況や思い出話、地元の話などに花を咲かせた。

みちのく

◇…「もう達成したの?」。大崎市のJR古

川駅前ビルの壁に、同市の観光大使を務め

る大相撲の横綱白鵬関の通算勝利

新記録の垂れ幕が掲げられた。

◇…よく見ると、一番上に「祈」

の1文字。通算勝利数は1040台に突入し、史上最多の1047勝に着実に近づいている。



◇…横には、大崎市出身で、5階も晴れて、どちらも「祈」の文字が級制覇を懸けた世界タイトル戦を「祝」に替わり、大願成就となるか。10月に予定するボクシングの藤岡地元ファンはその日を待っている。奈穂子選手の勝利を祈る垂れ幕。

(大崎)

9日に始まった大相撲名古屋場所所で通算勝利数の新記録を目指す横綱白鵬と、10月29日に大崎市古川総合体育館で開かれる世界戦で5階級制覇を目指す古川出身の女子プロボクサー藤岡奈穂子選手の勝利を祈って10日、古川土地の本社ビル(大崎市古川駅前大通)に懸垂幕が掲げられた。

古川土地本社ビルに掲げられた懸垂幕
.....
世界女子初5階級制覇」と書かれている。

2人は大崎市の魅力を全国に発信する「おおさき宝大使」を務めており、東日本大震災発生後は、被災地支援

白鵬関と藤岡選手の記録祈願

古川土地本社ビルに懸垂幕

懸垂幕は、縦約10メートル、横0.7メートルの2本。1本には「祈 横綱『白鵬関』通算勝利新記録達成」、もう1本には「祈 藤岡奈穂子選手

を続けてきた。

5月場所終了時点で通算1036勝の白鵬関は、今場所ですぐ大関・魁星の歴代最多勝

を続けてきた。利数1047勝を抜いて単独トップに躍り出るか注目されている。

懸垂幕を掲げた古川土地の早坂竜太社長

は、横綱白鵬・宮城野部屋大崎ファンクラブの幹事長、藤岡選手の世界戦実行委員を務めており、同社は藤岡

選手のスポンサー企業でもある。「被災地に寄り添ってくれた2人。今度は市民の代表のつもりで恩返しをしたい」と思い懸垂幕を設置した。懸垂幕の『祈』が『祝』に変わってくれますように」と願っていた。



二階堂トクヨ生誕の地

顕彰する会 サクララ植樹しPR

三本木

大崎市三本木桑折出身で日本女子体育大を設立した、二階堂トクヨ（1880～1941年）の偉業を伝えようと活動している「二階堂トクヨ先生を顕彰する会」（佐藤武一郎会長）は25日、生誕の地を示すオカメザクラ2本を三本木館山公園駐車場に植えた。

会長から届いた「トクヨ先生をNHKの連続テレビ小説の主人公にしてほしい」という手紙を受け、地元の人たちで立ち上げた。会員は現在、94人いる。植樹式には佐藤会長、高橋暎理事、伊藤康志大崎市長など関係者約70人が出席。伊藤市長、高橋理事ら4人がスコップで、高さ約3.5メートルのオカメザクラの

根元に土をかぶせた。2本のサクラの間には「二階堂トクヨ先生生誕の地」と書かれた記念の標柱が立てられた。佐藤会長は「トクヨ先生は、女子教育の発達に尽力した偉大な人。大崎市の誇りだ。この地から先生のこと……」と語り、二階堂トクヨ生誕の地にオカメザクラを植樹する伊藤市長ら



を広く伝えていきたい」とあいさつ。同会

顧問の伊藤市長は「トクヨ先生の思いを全国へ広めていきたい。サクラが大きくたくましく育つよう願っている」と祝辞を述べた。また、日本女子体育大同窓会宮城県支部の早川崎子支部長は「同

窓生も心を一つにして、女子体育大に偉人がいたことを伝えていきたい」と語った。式終了後は、「館山公園を復活させる会」（尾出利男会長）が中心となって、公園の清掃活動を共同で行った。

首都圏大崎連絡協10周年

東京・台東区 100人参加し記念総会

大崎市関係の在京組織役員などで組織する「首都圏大崎連絡協議会」と、同市出身者、支援者らによる「大崎ネットワーク」の設立10周年記念総会が18日、同市の姉妹都市・東京都台東区で開かれた。関係者約100人が出席し、ふるさとを真剣に考えたパネルディスカッションを行ったほか、例年通り懇親会で酒を酌み交わしながら交流を深めた。(記事は21日付既報)



協議会、ネットワーク協力者4人に感謝状を贈呈。左から佐々木会長、初代会長の伊藤長市顧問、旧田尻町長の堀江敏正顧問、古川土地社長の早坂竜大顧問、ソプラノ歌手の宮良多鶴子さん



「駅名、インターチェンジ名の『大崎古川』改称を」という声も上がったパネルディスカッション



門間忠市議会議長(左)の首頭で乾杯



5日前に女子プロボクシング世界4階級制覇を達成した藤岡奈穂子選手もチャンピオンベルトを手に参加。記念撮影にも気さくに応じた



「はばたけ大崎」発刊

首都圏大崎連絡協 発足10周年記念し

首都圏大崎連絡協議会（佐々木欽三会長）は、10周年記念誌「はばたけ大崎」を発刊した。協議会役員らで作る同誌編集委員会（委員長・上遠野智事務局長、委員数9人）がまとめたもので、18日に同市の姉妹都市、東京都台東区で開いた10周年記念総会の席上、市に1000冊を寄贈した。

「楽しく、何度も読み返していただけるように」（同協議会）と考え、佐々木会長のあいさつや事業報告だけでなく、思い出のスナップ写真を多数掲載。日本員である佐々木会長が



首都圏大崎連絡協議会の10周年記念誌「はばたけ大崎」

く、思い出のスナップ写真を多数掲載。日本員である佐々木会長が

執筆した「わらし村長」こと旧鹿島台村長・鎌田三之助翁の生涯、草刈文幸会長代行が詠んだ俳句、国重要文化財への指定が答申された田尻地域の「木造千手観音菩薩坐像」、大崎市の酒蔵特集なども盛り込んだ。

このほか、伊藤康志市長や門間忠市議会議長らのお祝いメッセージ、大相撲の横綱白鵬関、女子プロボクシングで世界4階級制覇を達成した藤岡奈穂子選手ら市の観光大使「おおさき宝大使」を務める人や同市関係者なども寄稿。昨年11月制定された「大崎市民歌」の歌詞や楽譜を掲載。市の花「ひまわり」、市の木「桜」、市の鳥「マガン」も写真入りで紹介している。

協議会や記念誌の問い合わせは同協議会事務局（キョット内）へ。電話0433(2886)6565。

首都圏から古里応援

大崎連絡協設立10周年

大崎市関係の在京組織役員らでつくる「首都圏大崎連絡協議会」と、同市出身者や支援者で構成する「大崎ネットクラブ」の設立10周年記念総会が18日、同市の姉妹都市・東京都台東区の上野グリーンパークで開かれ、関係者約1000人が出席した。懇親会に先立ち、同市関係者らが「大崎市発展と第2市民権」と題したパネルディスカッションを行った。

伊藤市長ら招きパネル討論



設立10周年記念総会に約1000人が出席



パネルディスカッションで伊藤康志市長は「合併後は一体感醸成に意を用いてきた。10年経過し、市が一つになりつつある」と紹介。

出身者やネットクラブ会員などを「第2市民」と位置づけ、無料や格安で往復バス運行などふるさと納税者の特典を付けることを提案。「大崎市は、外から見ると決め手がない。今後は旧1市6町平等で

空き家バンクや移住支援センターの開設など人口減抑止に取り組んでいることを説明し、「農村や農業の魅力の世界に伝え、ブランド力を高めた」と述べた。また、佐々木欽三会長（田尻出身）は、市長（田尻出身）は、市出身者やネットクラブ

はなく、1つか2つ光るもの考えたほうが良い」とも主張した。市と同協議会の窓口役を務める早坂竜太郎（古川土地社長）は「協議会が人材を結びつけ、市とプロ・有識者の結節点になることが大事」と力説。「会員とその人脈を情報登録できる人材バンクをつくるべき」と述べた。

長を務めた伊藤市長顧問（古川出身）、旧田尻町長の堀江敏正顧問、早坂顧問、同市など復興応援コンサートを行ってきたソプラノ歌手の宮良多鶴子さ



佐々木会長、伊藤市長らが参加しパネルディスカッションを実施

んの4人に感謝状を贈呈。また、10周年記念誌「はばたけ大崎」1000冊を市に寄贈した。懇親会は、古里のずんだもちなどを味わ

い、参加者のアトラクションも楽しみながら和やかに交流。13日に女子プロボクシングで世界4階級制覇を達成した藤岡奈穂子選手（古川出身）もチャンピオンベルトを手に出席した。

同協議会は、合併前から活動する市内7地域の在京組織、高校や中学の同窓会関東支部などの役員らが2008年設立。ネットクラブは、協議会メンバー以外の同市出身者や支援者などが入れる組織として11年に発足し、総会は協議会と合同開催している。次回総会は来年3月17日に開催予定。（後日写真特集の予定）



駅、IC名を「大崎古川」に

○：

「大崎

ブランドを上げるた

め、駅やインターチェ

ンジ(IC)の『古川』

を『大崎古川』にすべ

き」。首都圏大崎連

絡協議会の佐々木欽三

会長が、東京で18日開

いた設立10周年記念総

会のパネルディスカッ

ションでこう提案した。

○：『古川』の名称

は大事。やめるとは言

わない」と佐々木会長。

その上で『大崎』を

かぶせれば大崎市に光

が当たる」といい、J

Rの駅名変更時期に合

わせれば経費も抑えら

れると主張。パネリス

トの早坂竜太顧問(古

川土地社長)、司会の

草刈文幸会長代行も

「ハードルがあり、慎

重な検討は必要だが、

素晴らしいアイデア」

「準備委員会か検討委

員会をつくるべき」と

同調した。

○：これに対し伊藤康

志市長は、大きな宣伝

効果がある点には同意

しながらも、福島県い

わき市の「平駅」が「い

わき駅」に改称するま

で、合併から数十年を

要した事例を紹介。「地

名はデリケートな要素

がある。相当なエネルギー

「とても心に響く提案」

と述べるにとどめた。

○：しかし、出席した

同市出身者たちは次々

と挙手。「何年も待て

ない。市長の政治生命

をかけてやってほし

い」「古川市が大崎市
になった」と言っても
分かってもらえない。

一日も早く『大崎』と

付く駅名に」という要

望が相次いだ。

○：終了後の懇親会で

は、来賓あいさつに立

った菊地恵一県議が、

中島源陽県議会議長に

同意をとりつつ「県議

団も駅名変更を側面支

援したい」と。乾杯の

音頭をとった門間忠市

議会議長も「提案され

れば、市議会を挙げて

賛成する」とリップサ

ービスし、会場を沸か

せた。

首都圏大崎連絡協10周年

18日東京・台東区で記念総会

大崎市関係の在京組「都圏大崎連絡協議会」
役員らでつくる「首」（佐々木欽三会長）と、

同市出身者や支援者ら
でつくる「大崎ネット
クラブ」(同)の「設立10
周年記念総会」が18日
午前10時半から、東京
都台東区の上野グリー
ンパークで開かれる。
同協議会は、市内7

地域単位の在京組織、
高校や中学の関東同窓
会など各会の役員たち
が2008年設立。大
崎ネットクラブは、同
協議会構成メンバー以
外の同市出身者や支援
者などの組織として11
年に立ち上げ、総会は
合同開催している。
第1部は、議事に先
立ち、初代会長を務め
た伊藤長市顧問(古川
出身、おおさき宝大使)

と堀江敏正顧問(旧田
尻町長)、市と同協議
会の窓口役を担う早坂
竜太顧問(古川土地社
長)、同市など被災地
で復興応援コンサート
を行う歌手の宮良多鶴
子さんに感謝状を贈る。
また、「大崎20万都
市づくり」と題したパ
ネルディスプレイション
を実施する。パネリス
トは伊藤康志市長、早
坂顧問、佐々木会長(田
尻出身、おおさき宝大
使)など。
第2部の懇親会は、
同市関係者や宮良さん
の歌などがある。13日
に女子プロボクシング
で世界4階級制覇を達
成した藤岡奈穂子選手
(古川出身、同)も出
席予定。